



広島県支部会報



平成27年1月11日

第73号 広島県支部スキルアップ講習会

日時： 平成27年1月11日(日)13時30分～16時
場所： 広島市東区民文化センター1階第2会議室
主催： 日本防災士会広島県支部
参加者： 22人



野村幹事の紹介、右側が講師田中健路氏

広島県支部会員の防災士の受講者

講習会目的：

「8.20 広島土砂災害」はすさまじく大きな被害をもたらした。
その原因には多くの要因があるが集中豪雨の発生による土砂災害が大きく影響している。
今回は気象学の研究者により気象災害の視点から講演をしてもらった。

講演テーマ：「局地的大雨から地域を守る（8.20 広島豪雨災害の教訓から）」

講師： 広島工業大学環境学部地球環境学科
准教授 田中健路氏

以下、講演要旨を記載：

1. 2014年8月19～20日の大雨を振り返る
 - ・同じところで激しい降雨が続く（線状降水帯、バックビルディング形成）
 - ・梅雨前線の大雨と似た仕組み（太平洋高気圧と日本海側の停滞前線）
 - ・広島県南西部で大雨が起こり易い条件（大量の湿った空気が豊後水道を通り広島へ流れる）

2. 広島地域の被害の特徴

- ・背後の阿武山の溪流から複数回にわたり土石流が発生し、山斜面の土砂を削りながら進む
- ・土石流は道路を崩壊、地下埋設管を破壊し、深夜の避難所への移動を危険にした
- ・車の流出被害も多かった
- ・背後の庭園によって土砂や流木がかなり食い止められて所もあった

3. 深夜の大雨の対応の難しさ

- ・気象、河川水位などの同時情報や被害状況など、様々な情報が集中、通信回線が輻輳し必要な情報の入手に時間がかかった
- ・すべての情報が有効に活用されないものもある
- ・深夜緊急時に於ける自治会との連絡は難しい
- ・住民が安全に早く避難するためには行政からの早めの情報発信が大きな支えとなる
- ・しかし今回の集中豪雨のように短時間で急変する現象に対して、避難所への移動は土石流に巻き込まれ被害が拡大する
- ・急変する気象現象下では「最小限の移動（時間）で安全確保を行う」行動が大事

4. 今後に向けて

(1) 気象情報を読み解く力を養う

- ・大雨警報・注意報
- ・洪水警報・注意報
- ・土壌雨量指数
- ・夏の大雨の起こり易い状況を天気図から読み解く
- ・レーダーの画像を読み解く
 - 1つの積乱雲のもたらす雨は数10分で終わる
 - 1つ、1つは小さくても動きがゆっくりで、複数の雨雲が集まって強い降雨を持つものは注意、積乱雲が次々と世代交代し激しい雨が続く → Yahoo 雨雲レーダー動画参考

(2) 地域の中で共有する事

- ・地域の中の様々な生活スタイルの住民と情報の共有
- ・地域の知的資源の共有活用
- ・地域の中での勉強会（ワークショップ）の実施 →ハザードマップの解説、地形や河川・水路の位置確認、地域の災害歴史、危険箇所情報等、スマートフォンやタブレットの使い方など
- ・地域で幅広く参加できる啓発イベントの企画実施

あとがき：

今回の講義内容は土砂災害の基本的要因となる気象現象の説明であった。
重要な事であるが気象学の専門的事柄に慣れていない防災士には少々難しさを感じた。
しかし気象現象の変化、災害発生頻発の現状を考えると防災・減災に向けて取り組まねばならないテーマである。これからも防災士のスキルアップに向け本分野の学習、習得、活用が必要である。
(広報担当 桑木)